

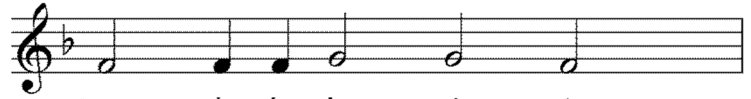
【 重聯禱 】

代禱 ^{われらみなたまし}い ^{まつと} ^い ^{われら} ^{おも}い ^{まつと} ^い
我等皆 靈 を 全うして曰わん、我等の 思 を 全うして曰わん、



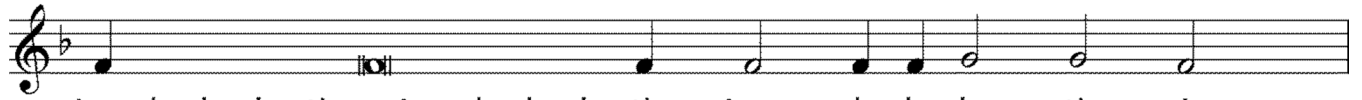
しゅあわれ めよ。
主 憐

代禱 ^{しゅぜん}の ^うしや ^わ ^{れつ}そ ^かみ ^{なんぢ} ^いの ^きい ^あわれ
主 全 能 者、吾が 列 祖 の 神 よ、爾 に 禱 る 聆 き 納 れ て 憐 め よ、



しゅ あわれ め よ。
主 憐

代禱 ^かみ ^{なんぢ} ^おお ^い ^あわれ ^み ^よ ^{われ}ら ^あわれ ^{なんぢ} ^いの ^きい ^あわれ
神 よ、爾 の 大 なる 憐 に 因 り て 我 等 を 憐 め よ、爾 に 禱 る、聆 き 納 れ て 憐 め よ、



しゅあわれ め、しゅあわれ め、しゅ あわれ め よ。
主 憐 主 憐 主 憐

代禱 ^また ^わ ^くに ^てん ^のう ^およ ^くに ^つか ^さど ^もの ^ため ^いの
又 我 が 國 の 天 皇 及 び 國 を 司 る 者 の 爲 に 禱 る、



しゅあわれ め、しゅあわれ め、しゅ あわれ め よ。
主 憐 主 憐 主 憐

代禱 ^また ^きやう ^かい ^つか ^さど ^そん ^き ^われ ^ら ^ぜん ^に ^ほん ^ふし ^ゆき ^{やう}
又 教 會 を 司 る 尊 貴 なる 我 等 の 全 日 本 の 府 主 教 セ ラ フ ィ ム、及 び ハ リ ス ト ス に 於

ける ^こと ^ごと ^われ ^ら ^けい ^てい ^ため ^いの
の 爲 に 禱 る、



しゅあわれ め、しゅあわれ め、しゅ あわれ め よ。
主 憐 主 憐 主 憐

代禱 ^また ^われ ^ら ^けい ^てい ^しよ ^しさ ^い ^しよ ^しゆ ^うど ^う ^しさ ^い ^およ
又 我 等 の 兄 弟、諸 司 祭、諸 修 道 司 祭、及 び ハ リ ス ト ス に 於 ける 我 等 の 衆 兄 弟

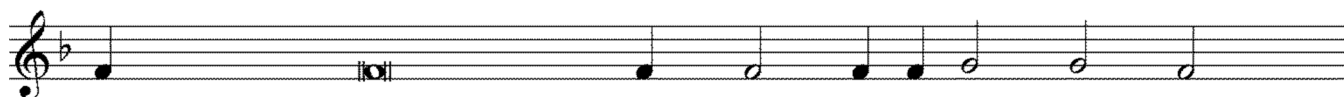
^ため ^いの
の 爲 に 禱 る、



しゅあわれ め、しゅあわれ め、しゅ あわれ め よ。
主 憐 主 憐 主 憐

代禱 ^また ^つね ^きお ^く ^る ^ふく ^しせ ^い ^せい ^きやう ^パト ^リア ^ルフ ^せい ^どう ^こん ^りゆ ^うし ^や ^およ
又 恒 に 記 憶 せ ら る る、福 た る 至 聖 なる 正 教 の 総 主 教、こ の 聖 堂 の 建 立 者、及

^すで ^ねむ ^こと ^ごと ^ふそ ^けい ^てい ^こ ^とこ ^ろ ^しよ ^ほう ^ほう ^む ^せい ^きやう ^もの ^ため
び 已 に 寝 り し 悉 くの 父 祖 兄 弟、此 の 處 と 諸 方 と に 葬 ら れ た る 正 教 の 者 の 爲
に 禱 る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅ あわれ め よ 。
主 憐 主 憐 主 憐

代禱) またこ しそん せいどう もの たてまつ ぜんぎょう おこな これ ろう これ うた およ
又此の至尊なる聖堂に物を 獻り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び

ここ た なんぢ おおい ゆたか あわれみ あお のぞ もの ため いの
此に立ちて爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅ あわれ め よ 。
主 憐 主 憐 主 憐

(※ 特別な災害や特別な感謝がある時、重聯禱にその旨追加する場合があります。その場合も「主憐め、主憐め、主憐めよ。」と応えて歌う。

例えば

「またこ まち およそ まち ちほう えきびょう まんえん まも わ ぜん ひと あい かみ
又此の都邑と凡の都邑と地方が、疫病の蔓延より護られ、我が善にして人を愛する神

じんじ あいれん た およ われら のぞ いかり とど そのわれら せま ぎ ばつ われら
が仁慈と哀憐とを垂れて、凡そ我等に臨む怒りを遏め、其我等に迫る義なる罰より我等

すく およ われら あわれ ため いの
を救い、及び我等を憐むが爲に禱る、」

「またなんぢ ゆたか そのしよぼくひ そそ しよおん ため なんぢ じんじ かんしゃ ふふく
又爾が豊に其諸僕婢(某)に注ぎたる諸恩の爲に爾の仁慈に感謝して俯伏

なんぢ かみ かな さんよう たてまつ しょうかん じょう もつ よ なんぢ しよぼくひ もろもろ
し、爾に神に適いたる讃揚を奉り、傷感の情を以て呼ぶ、爾の諸僕婢を諸

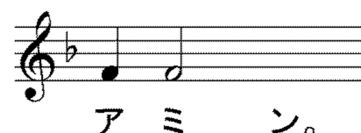
わざわい まぬが そのじれん よ つね われらしゅうじん よ のぞみ かな たま ねつしん
の禍より免しめ、其慈憐なるに因りて常に我等衆人の善き望を適え給え、熱心

にして爾に禱る聆き納れて憐めよ、」

等)

代禱) しゅ かみ こ なんぢ しじょう はは しょせいじん きとう より われ
主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我

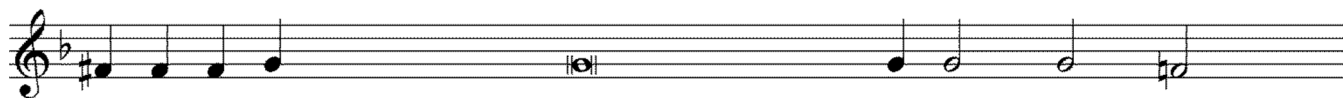
ら あわれ たま
等を憐み給え、



ア ミ ン。

【 死者の聯禱 】

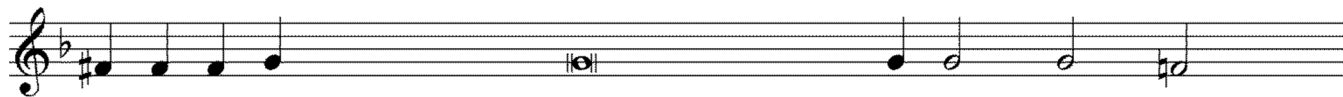
代禱) かみ なんぢ おおい あわれみ より われら あわれ なんぢ いの き い あわれ
神よ、爾の大なる憐に因て我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

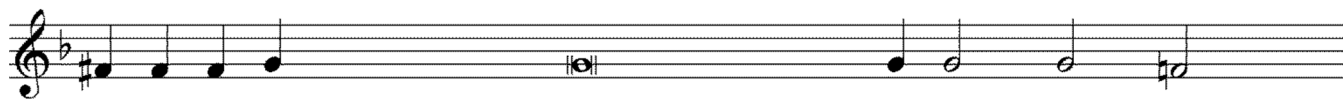
代禱) ^{またねむ} 又 ^{かみ} 寝りし ^{ぼくひ} 神の ^{たましい} 奴婢(^{あんそく} 某)の ^{ため} 靈の ^{およ} 安息の ^{かれら} 爲、^{およ} 及び ^{じゆう} 彼等に ^{じゆう} 凡そ自由と自由なら

^{つみ} ざる ^{ゆる} 罪の ^{ため} 赦されんが ^{いの} 爲に ^{いの} 禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

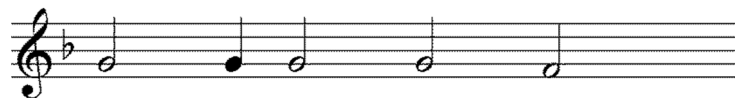
代禱) ^{しゅかみ} 主 ^{かれら} 神が ^{たましい} 彼等の ^{しよぎじん} 靈を ^{あんそく} 諸義人の ^{ところ} 安息する ^い 處に ^{たま} 入れ ^{いの} 給わんことを ^{いの} 祈る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

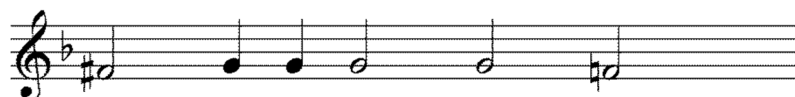
代禱) ^{かれら} 彼等に ^{かみ} 神の ^{あわれみ} 憐と ^{てんごく} 天國と ^{しよぎじん} 諸罪の ^{ゆるし} 赦とを ^{たま} 賜わんことを、^{わがし} ハリストス ^{おうおよ} 我死せざる ^{わがし} 王及

^{かみ} び ^{ねが} 神に ^{ねが} 願う、



しゅ た ま え よ 。
主 賜

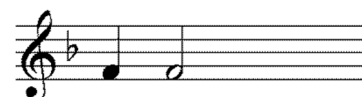
代禱) ^{しゅ} 主に ^{いの} 禱らん、



しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱) ^{しゅ} 主 ^{かみ} イイスス・^こ ハリストス、^{かみ} 神の子よ、^{なんぢ} 爾が ^{しじょう} 至 ^{はは} 淨の ^{しよせいじん} 母と ^{きとう} 諸 ^{より} 聖人との ^{われ} 祈禱に ^{われ} 因て、我

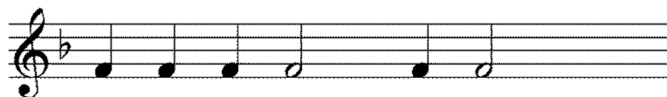
^ら 等を ^{あわれ} 憐 ^{たま} み ^{たま} 給え、



ア ミ ン。

【 増聯禱 】

代禱) ^{われらしゅ} 我等 ^{まえ} 主の ^わ 前に ^{いのり} 吾が ^ま 禱 ^{くわ} を ^{くわ} 増し ^{くわ} 加えん、



しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱) ^{こ せいどう およ しん つつしみ かみ おそ こころ もつ ここ きた もの ため しゅ いの}
 此の聖堂、及び信と 慎 と神を畏るる 心 とを以て此に来る者の爲に主に禱ら
 ん、



代禱) ^{われらもろもろ うれい いかり あやうき まぬか ため しゅ いの}
 我等 諸 の憂愁と忿怒と危難とを 免るるが爲に主に禱らん、



代禱) ^{かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも}
 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い 憐み護れよ、



代禱) ^{こ ひ じゅんぜん せいせい へいあん むざい しゅ もと}
 此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



代禱) ^{へいあん てんし ただ きょうどうし わ れいたい しゅごしや たま しゅ もと}
 平安の天使、正しき 教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



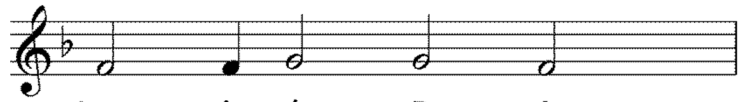
代禱) ^{われら つみ あやまち なだ ゆる しゅ もと}
 我等の罪と 過 とを宥め赦さんことを主に求む、



代禱) ^{われら たましい ぜん えき こと およ せかい へいあん たま しゅ もと}
 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、



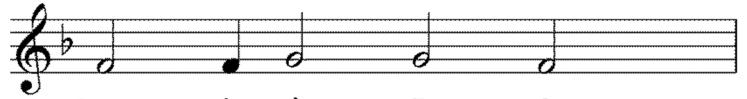
代禱) ^{われら いのち よじつ へいあん つうかい もつ おわ しゅ もと}
 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



しゅ たま え よ 。
主 賜

代禱) われら いのち おわり ^{かな やまい はぢ へいあん およ} 我等の生命の終がハリストティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及び

ハリストスの畏るべき審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、

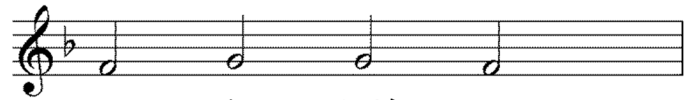


しゅ たま え よ 。
主 賜

代禱) しせいしけつ ^{いた さんび われら こうえい ちよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ} 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤ

と、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉く

の我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な んぢ に 。
主 爾

代禱) しゅ ^{かみ こ なんぢ しじょう はは しよせいじん きとう より われ} 主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我

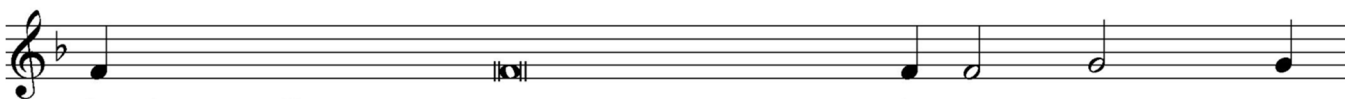
等を憐み給え、



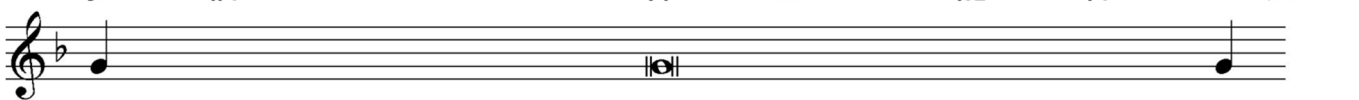
ア ミ ン。

【 ニケア・コンスタンチヌーポリ全地公会にて採択されし信經 】

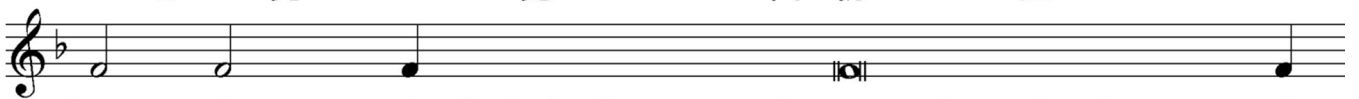
代禱) もん もん つつし ^き 門、門、敬みて聽くべし、



われしんず、ひとつのかみちちぜんのうしゃ、てん
我 信 一 神 父 全 能 者 天



とち、みゆるとみえざるばんぶつをつくりし
地 見 見 萬 物 造



しゅ を、またしんず、ひとつのしゅイイススハリス
主 又 信 一 主

トスカみのどくせいの子、よろづよのさき
 神 獨 生 子 萬 世 前

にちちよりうまれ、ひかりよりのひかり、
 父 生 光 光

まことのかみよりのまことのかみ、うま
 眞 神 眞 神 生

れしものにてつくられしにあらず、ちち
 者 造 非 父

といたいにしてばんぶつかれにつくられ、
 一 體 萬 物 彼 造

われらひとびとのため、またわれらのすくい
 我 等 人 人 爲 又 我 等 救

のためにてんよりくだり、せいしんおよび
 爲 天 降 聖 神 及

どうていぢょマリヤよりみをとりにととな
 童 貞 女 身 取 人

り、われらのためにポンティイピラトのときじゅう
 我 等 爲 時 十

じかにくぎうたれ、くるしみをうけほう
 字 釘 苦 受 葬

むられ、だいさんじつにせいしよにかないて
 第 三 日 聖 書 應

ふくかつし、てんのぼり、ちちのみぎに
 復 活 天 升 父 右

ざ し 、 こ う え い を あ ら わ し て い け る も の
 坐 光 榮 顯 生 者

と し せ し も の と を し ん ぱ ん す る た め に ま た き た
 死 者 審 判 爲 還 來

り 、 そ の く に お わ り な か ら ん を 、 ま た し ん
 其 國 終 又 信

ず 、 せ い し ん し ゅ い の ち を ほ ど こ す も の ち ち よ り
 聖 神 主 生 命 施 者 父

い で 、 ち ち お よ び こ と と も に お が ま れ ほ 讚
 出 父 及 子 共 拜

め ら れ 、 よ げ ん し ゃ を も っ て か っ て い い し を 、
 預 言 者 以 嘗 言

ま た し ん ず 、 ひ と つ の せ い な る お お や け な る し 使
 又 信 一 聖 公

と の き ょ う か い を 、 わ れ み と む 、 ひ と つ の
 徒 教 會 我 認 一

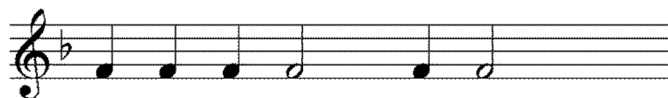
せん れ い 、 も っ て つ み の ゆ る し を う る を 、
 洗 禮 以 罪 赦 得

わ れ の ぞ む し し ゃ の ふ く か っ 、 な ら び に
 我 望 死 者 復 活 並

ら い せ い の い の ち を 、 ア ミ ン 。
 來 世 生 命

【 増聯禱 】

代禱) われら^{しよせいじん} 我等^{きおく} 諸^{またまたあんわ} 聖^{しゅ} 人^{いの} を記憶^{して}、復^又 安^和 にして主^に 禱^{らん}、



しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱) われら^{もろもろ} 我等^{うれい} 諸^{いかり} の憂^{あやうき} 愁^{まぬか} と忿^{ため} 怒^{しゅ} と危^{いの} 難^を とを免^る るが爲^に に主^に 禱^{らん}、



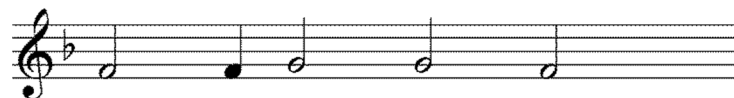
しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱) かみ^{なんぢ} 神^{おんちよう} よ、爾^{もつ} の恩^{われら} 寵^{たす} を以^て、我^{すく} 等^{あわれ} を佑^{まも} け救^い い憐^み み護^れ れよ、



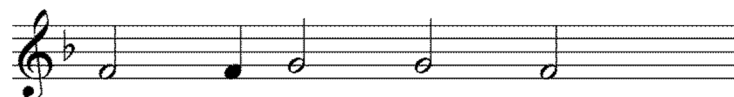
しゅ あ わ れ め よ 。
主 憐

代禱) こ^ひ の日^{じゅんぜん} の純^{せいせい} 全^{へいあん} ・成^{むざい} 聖^{しゅ} ・平^{もと} 安^を ・無^を 罪^を ならんことを主^に に求^む、



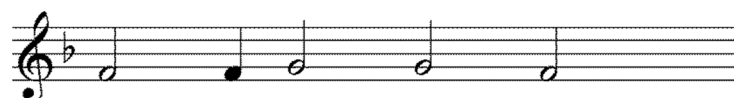
しゅ た ま え よ 。
主 賜

代禱) へいあん^{てんし} 平^{ただ} 安^{きようどうし} の天^わ 使^{れたい}、正^{しゅ} しき^{ごしや} 教^{たま} 導^{しゅ} 師^{もと}、吾^を が靈^を 體^を の守^を 護^を 者^を を賜^{わん} ことを主^に に求^む



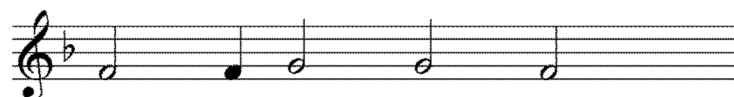
しゅ た ま え よ 。
主 賜

代禱) われら^{つみ} 我^{あやまち} 等^{なだ} の罪^{ゆる} と過^{しゅ} とを宥^{もと} め赦^{さん} さんを主^に に求^む、



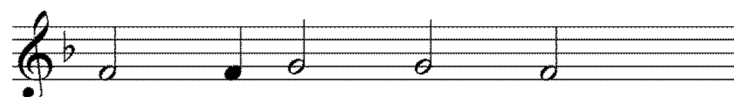
しゅ た ま え よ 。
主 賜

代禱) われら^{たましい} 我^{ぜん} 等^{えき} の靈^{こと} に善^{およ} にして益^{せかい} ある事^{へいあん}、及^{たま} び世^{しゅ} 界^{もと} に平^を 安^を を賜^{わん} ことを主^に に求^む、



しゅ た ま え よ 。
主 賜

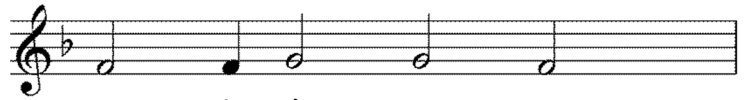
代禱) われら^{いのち} 我^{よじつ} 等^{へいあん} の生^{つうかい} 命^{もつ} の餘^{おわ} 日^{しゅ} を平^{もと} 安^を と痛^を 悔^を とを以^て 終^{らん} らんことを主^に に求^む、



しゅ た ま え よ 。
主 賜

われら いのち おわり
代禱) 我等の生命の終がハリストティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及び

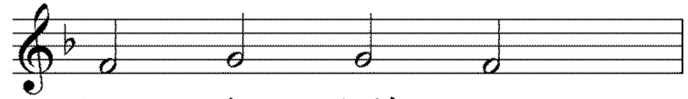
おそ しんばん おい よろ こたえ たま もと
ハリストスの畏るべき審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



しゅ たま え よ 。
主 賜

しん どういつ せいしん たいごう もと われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならば
代禱) 信の同一と聖神の體合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并

ことごと われら いのち もつ かみ いたく
に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な ん ぢ に 。
主 爾

しゅ かみ こ なんぢ しじょう はは しょせいじん きとう より われ
代禱) 主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我

ら あわれ たま
等を憐み給え、



ア ミ ン。

【 天主經 】



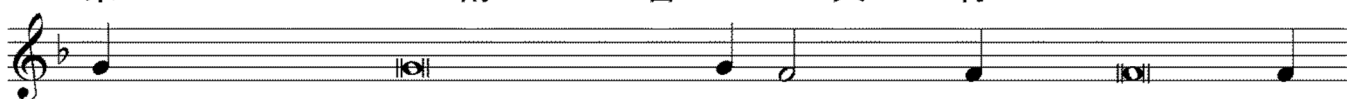
てんにいますわれらのちちよ、ねがわくは
天 在 我 等 父 願



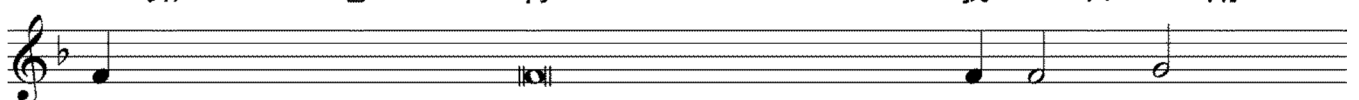
なんぢのなはせいとせられ、なんぢのくには
爾 名 聖 爾 國



きたり、なんぢのむねはてんにおこなわるる
來 爾 旨 天 行



がごとくちにもおこなわれん。わがにちよう
如 地 行 我 日 用



のかてをこんにちわれらにあたえたまえ。
糧 今日 我 等 與 給

われらにおいめあるものをわれらゆるすがご
 我等債者我等免如
 とく、われらのおいめをゆるしたま
 我等債免給
 え。われらをいざないにみちびかず、
 我等誘導
 なおわれらをきょうあくよりすくいたま
 猶我等凶悪救給
 え。

【 常に福 】

代禱) ^{しせい}至聖なる ^{しょうしんぢよ}生神女よ、^{われら}我等を ^{すく}救い ^{たま}給え、

つねにさいわいにし てま たくき ずなき
 常 福 全 瑕
 しょうしんぢよ。わが かみのは はたる なんぢを
 生 神 女 我 神 母 爾
 さいわいなりととの うるは ま ことに あた
 福 称 眞 當
 れり。
 ヘルヴィムより と うとく セラフィムにならびなく
 尊 並

さかえ、みさおをやぶらずしてかみこと
 榮 貞操 壊 神 言
 ばをうみし、じつのしょうしんぢよたるなんぢ
 生 實 生 神女 爾
 をあがめほむ。
 崇 讚

代禱) ^{こうえい}光榮は父と子と^{せいしん}聖神に歸す、^{いま}今も^{いつ}何時も^{よよ}世世に、

アミン。

代禱) ^{しゅ}主イイスス・ハリストス、^{かみ}神の子よ、^{なんぢ}爾が^{しじょう}至淨の^{はは}母と^{しょせいじん}諸聖人と^{きとう}の祈禱に^{より}因て、^{われ}我
^ら等を^{あわれ}憐み^{たま}給え、

アミン。

【 萬壽詞 】

かみよ、わがくにのてんのおう、および
 神 我 國 天皇 及
 くにをつかさどるもの、われらのふしゆ
 國 司 者 我 等 府主
 きょうセラフィム、およびことごとくのせいきょう
 教 及 悉 正 教
 のハリストティアニンらを、いくとせにもまもり
 等 幾 歳 にも 護



(祈祷終了)

2020年 3月 7日 釧路管轄司祭ステファン内田 作成
2023年 12月 14日 一部改訂